

## 道南江差町の海岸で発見された甲虫を初公開！！

### 【概要】

江差町の海岸の流木の下から見つかった甲虫が、ムネスジフトカミキリモドキ（新種）として今年記載されました。そのパラタイプ（新種記載に使われた標本）を、北海道博物館で10月14日から開催する第6回企画テーマ展「きれい？ 不思議？ 楽しい！？ 漂着物—北の海辺でお宝みっけ！—」で初公開いたします。

### 1. 海岸から新種の昆虫

江差町の海岸に漂着した流木の下から見つかったカミキリモドキが新種と判明し、茨城県の個体とともに今年5月の日本甲虫学会の国際誌のELYTRAで新種記載されました。そのパラタイプ（新種記載に使われた標本）を北海道博物館で開催する第6回企画テーマ展「きれい？ 不思議？ 楽しい！？ 漂着物—北の海辺でお宝みっけ！—」〔2016. 10. 14(金) - 11. 27(日)〕でパラタイプを初公開します。これまで、この種が属するフトカミキリモドキの仲間は、主に東南アジア、フィリピン、台湾、南西諸島、そして日本の南西部に分布する南方系の甲虫でした。それが、遠く離れた北の北海道の海岸から確認されたのは、非常に注目される発見です。



### 2. 発見の経緯

北海道の個体は厚沢部町在住の野村昭英氏が海岸の流木の下から見慣れない甲虫を見つけ、北海道博物館の堀繁久にその種の解明を託しました。その後、カミキリモドキの分類を専門にしている秋山秀雄氏が所有されていた茨城県の波崎海岸で見つかったものと同じ種で、今まで知られていない新種と判明し、記載されました。

### 3. 意義 北海道にはまだまだ新発見が

海岸の昆虫はまだ未解明なものが残されており、海流によって運ばれて漂着する流木によって、分布を広げた種と推測されます。15mmもある甲虫が見つかったことは驚きで、北海道の海岸からはまだまだ新たな発見が期待されます。

### 4. 公開

北海道博物館第6回企画テーマ展「きれい？ 不思議？ 楽しい！？ 漂着物—北の海辺でお宝みっけ！—」〔2016. 10. 14(金) - 11. 27(日)〕でパラタイプを初公開します。新種記載の掲載誌は次の通りです。Akiyama, H. & Hori, S. (2016) A New Species of the Genus *Asestina* (Coleoptera, Oedemeridae) from Central Honshu and Southwestern Hokkaido, Japan. *Elytra* N. S. 6(1):47-50

### 問い合わせ先：北海道博物館（TEL：011-898-0456）

#### ①取材・画像提供に関すること

社会貢献グループ 研究成果発信担当 青柳かつら (aoyagi.katsura@pref.hokkaido.lg.jp) ・  
甲地利恵 (kochi.rie@pref.hokkaido.lg.jp)

※報道機関には、本資料に掲載されている画像をデジタルデータで提供可能です。お問い合わせください。使用の際は所蔵・提供先を明記して下さい。

#### ②研究内容に関すること

博物館研究グループ 堀繁久（ほり・しげひさ） 学芸主幹（55歳） hori.shigehisa@pref.hokkaido.lg.jp